

令和3年度 学校評価書

学校名（東温市立上林小学校）

- 1 学校の教育目標 自己をひらき、ともに学び、たくましく伸びゆく、上林っ子の育成
 2 経営の基本方針 “ふるさと上林” に生きる自分に誇りと自信をもち、「人・もの・こと」との関わり合いを通して、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。

令和4年2月10日

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	○ いじめを許さない毅然とした指導と、適切な教育相談等を通じた不登校への予防的取組ができた。	3.6	3.9	3.8	○ 全ての項目において昨年度より0.1ポイント上昇した。特に、新しい学校生活様式の実現については、家庭と学校が連携して取り組み児童の意識や行動に大きな変容が見られた。 ○ いじめ・不登校等への対応について、本年度は積極的認知に努めた。いじめはいつでもどこでも起こりうる問題である。学校では、死角をつくらぬよう休み時間の見守り活動や毎月アンケートや教育相談を実施し、情報共有に努めている。 ● 今後は、家庭との連携を更に密にし、いじめの早期発見と早期解決に努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> いじめは、現在最も大きな社会問題の一つである。少人数であっても学校は細心の注意を払っていただきたい。 全国学力・学習状況調査の結果にも表れているとおり、より効果的な学習指導が実施されていることが伺える。 近年、読書の時間が少なくなってきた。ゲーム等に時間を取ることが多いと思う。読書の時間を確保して、感性豊かな児童を育ててほしい。 小規模校であるため学校行事等、全校児童で行う事が多くその中で、互いに認め合い思いやる姿勢が見受けられる。 一人一台の端末でドリル計算学習に取り組んだり、大型ディスプレイを使って意見発表をしたりと効果的で分かり易い授業を展開している。 特別支援教育はその個人の長所を伸ばすよう、将来に役立つように指導してほしい。 上林地域も県道が改良されスピードが出やすい上に、皿が峰や風穴、白糸の滝などの観光資源があるため、車の交通量はかなりあり、また近年はサイクリストの自転車も多数見かけるなど、子どもたちの登下校時の危険が増大している。大きな事故がないのは安全確保対策がしっかり実施されている証左である。 運動会での聖陵高等学校ダンス部との交流は素晴らしい。また、地域の方々の協力を得て行われている田植えなどの行事は、農家の子どもでもない児童にとっても農業の大切さを学ぶ機会になっていると思われる。 今年の芋作りは不作な年で、児童にとって豊作の時もあれば不作な時もあることや作物を作る苦労や難しさを感じたのではと思う。 子どもたちは、三方を山に四方を水田に囲まれ、四季折々の草木・花きの変化など、豊かな自然に触れながら通学・生活し、学校では先生方から熱くかつ優しく指導・教育を受けており、豊かに大きく育っていると感じられる。 今後も ICT 機器の充実を図るとともに積極的な活用を努め、学力等の向上を図ってほしい。
	基本的な生活習慣の定着	○ 気持ちのよい挨拶や、正しい名前呼び方、時と場、相手に合った言葉遣いをしようとする態度を育てることができた。	3.6	3.9	3.5		
	望ましい行動様式	○ 生活目標・安全目標に基づいて、指導の重点化を意識して指導を行った。	3.8	3.8	3.8		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	○ 学習意欲の喚起と個に応じたきめ細かな指導の充実により、基礎・基本を定着させることができた。	3.4	3.8	3.9	○ 少人数の特性を生かし、一人一人の学習状況を適切に把握した上で個に応じた指導をするとともに、積極的な ICT 機器の活用を努めた。6年生が取り組んだ全国学力・学習状況調査においても本校児童は顕著な成績を収めており、学習内容の確実な履修に努めた成果であると捉える。 ○ ICT 機器の授業での活用については、授業を担当している教員全員がタブレットを用いた学習を実施できるようになっている。 ○ 個別の学習指導だけでなく、放課後水泳教室で練習を重ね、記録が向上したことが自信となったり、道徳授業の全校研究会を実施することで、友達の多様な考えに触れたりするなど、知・徳・体のバランスが取れた学習活動を推進し、保護者評価も向上した。	
	家庭学習の充実	○ 「家庭学習の手引き」を有効に活用し、家庭の協力を得ながら指導に当たった。	3.4	3.8	3.4		
	ICTを活用した授業改善	○ ICT 機器を有効に活用し、「分かる・できる・楽しい」授業への改善に取り組んだ。	3.8	3.9	3.9		
	読書活動の推進	○ 読書を通して、言葉を学び、感性や表現力、創造力を豊かなものにするため、読書環境の整備に努めた。	3.4	3.8	3.7		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	○ 道徳の授業の充実や、実践に結びつく道徳教育・人権教育に教育課程全体を通して取り組んだ。	3.6	3.9	3.8	○ 本年度、全校体制で道徳の授業研究に取り組み、東温市教育研究大会の会場校として道徳の授業を公開した。伝え合い、学び合う道徳学習の一例を紹介することができた。また、日曜参観日において地域・保護者とともに人権学習に取り組むこともできた。 ○ 放課後水泳教室や校内水泳記録会の実施、継続的な放課後陸上運動の取組等が、児童の健康な生活に寄与している。また、共に励まし合って取り組むことで仲間意識を育むことにつながった。 ● スマホやゲーム機器等の使用方法には依然として課題がある。視力低下が心配される児童もいる。長時間使用が及ぼす様々な影響について親子で学ぶ機会を関係機関の協力を得て実施することとなっているが、中止となってしまったため、次年度は確実に実施する。	
	仲間づくり・集団づくり	○ 相手の気持ちを理解し、互いに認め合い、協力し、助け合う人間関係づくりを推進した。	3.8	3.9	3.8		
	健康づくり・体力づくり	○ 早寝早起き朝ごはん、うがいや手洗い、歯磨き等の習慣を身に付けさせるとともに、児童の体力についての現状や課題を把握し、体力向上に関する指導を推進した。	4.0	3.8	3.6		
特別支援教育	特別支援教育の充実	○ 授業のユニバーサルデザイン化を図るなど、特別支援教育の趣旨を生かしたよく分かる授業展開に努めた。	3.4	3.8	3.8	○ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成について研修した。教育課程の見直し等児童一人一人のよさが伸長できるよう、教職員間の情報共有と研修体制を更に充実させたい。	
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	○ 家庭・地域・関係諸機関との連携による登下校の安全確保や不審者対策を実施し、安全で安心できる学校づくりができた。	3.6	4.0	3.7	○ 東温市と連携して校区の安全点検を実施し、危険個所の把握に努めた。また、登下校の見守り活動や休み時間の見守りを強化することで学校管理下に切れ目のない安全確保に取り組んだ。 ● 本年度は、総合防災訓練を実施する予定であったが、感染防止のため延期となった。次年度は、総合防災訓練を契機として、児童の安全確保について、地域・保護者・学校が連携した自主防災組織の対応ができるようマニュアルの整備が求められる。同様に引き渡し訓練も実施していないため、時機を逸しないよう確実に実施する。	
	防災教育の充実	○ 防災マニュアルを策定し、日々の教育実践に役立てるなど、「みんなの命をみんなで守る」「自分の命を自分で守る」児童の育成に努めた。	3.6	3.9	3.9		
	施設・設備の安全管理	○ 安全点検の徹底による潜在危険箇所の早期発見・完全除去及び防災・防犯につながる備えの確認をした。	4.0	3.8	3.5		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	○ 地域の人材を講師として活用したり、運動会、学芸会、稲作等の行事運営を PTA や地域と協力して行ったりするなど、学校運営協議会と連携して地域に開かれた教育活動を推進した。	3.8	4.0	3.8	○ 地域の方々に体験活動の意義を理解していただき、上林小学校が推進している地域教育の一環として稲作を実施した。本年度は2年振りとなる田植えを実施したり、学校運営協議会主催によるもちつき大会を開催したりすることができた。コロナ禍においても学校行事を工夫して運営することで地域の方に成長した児童の姿をご覧いただくことができ、高評価となったと考えられる。 ○ 本年度のように学校運営協議会と連携して新しい生活様式の中で家庭・地域とともにある学校としての役割を果たしたい。	
	情報の共有化	○ 学校だより（学年だより）、ホームページを工夫・充実し、保護者に児童の様子や学校の方針を理解してもらえるよう努めた。	3.8	3.9	3.9		
特色ある学校づくり	緑の少年団	○ 緑の少年団活動への効果的な指導を通して、地域の美しく豊かな自然環境を守ろうとする態度を養うことができた。	3.8	4.0	3.8	○ 緑の少年団活動を核として上林ウォークラリーやイモづくりなど児童が主体的に自然に学ぶ活動を実施した。 ○ 本年度は、花きや農作物が不作であったものの、自然と向き合う農業の難しさを学ぶきっかけとなり、地域の産業に関心を持つことができたことが児童評価からも伺える。	
	栽培活動	○ 植物や野菜等の栽培活動を充実させ、自然を愛護し、自他の生命を大切にしていく態度を育てることができた。	3.6	4.0	3.8		
施設・設備の充実	ICTの有効活用	○ 教育効果を高める環境整備と施設・設備・備品の有効活用を行った。	3.8	4.0	3.7	○ ICT 機器を有効活用するために、ICT 支援員を活用して校内研修を4回実施した。学習指導充実のための操作方法を学び、積極的に授業で活用することができた。 ● 今後の端末持ち帰り、遠隔授業の実施を想定した研修や実践、環境整備をすることによって端末や通信環境等をいっそう有効に活用することが望まれる。	
	学習・生活環境充実への取組	○ 一人一人を大切に示した掲示や安らぎと潤いのある環境づくりに努めた。	4.0	3.9	3.9		